

プレジャーボートの事故を未然に防ぐために ＜海上保安庁・中部小型船安全協会と海上安全講習会を開催＞

東海総合通信局(局長 長塩 義樹)は11月7日(土)、第四管区海上保安本部(本部長 廣川 隆)と公益社団法人中部小型船安全協会(会長 小栗 一郎)とともに、船舶事故の多くを占めるプレジャーボートの事故を未然に防ぐための海上安全講習会を伊勢湾海洋スポーツセンター(三重県津市)で開催し、津ヨットハーバー利用者22名が参加しました。

講習会では、当局の職員が海難防止のための無線設備であるAIS(自動船舶識別装置)、国際VHF無線(船舶共通通信システム)、PLB(救命用携帯無線機)の機能や具体的な使い方などを説明し、無線局申請手続きに関する相談を参加者から受けました。海上保安庁の職員は、プレジャーボートの海難発生状況と対策について説明し、救命胴衣の着用方法や海中転落者の救助方法などを実演しました。

無線機器メーカー3社^(※)の協力を得て、機器の展示とデモも行われ、機器を手にした参加者がメーカーの社員に熱心に質問する場面も見られました。

東海総合通信局では、今後も、海上保安本部と公益社団法人中部小型船安全協会とともに海難防止講習会を開催してまいります。

※アイコム株式会社、フルノ関西販売株式会社、八重洲無線株式会社

お問い合わせ先：無線通信部航空海上課 052-971-9195

●AIS(自動船舶識別装置:Automatic Identification System)

船舶の送信機から自動で発信される船名、位置、針路、速力等のデータを受信し、電子海図やレーダー画面に表示することで船舶の衝突事故を防止。

●国際VHF(船舶共通通信システム)

船舶の大きさや用途等に関わらず、全ての船舶で共通に通信できるシステム。

●PLB(救命用携帯無線機:Personal Locator Beacon)

海上で遭難した時に人工衛星を経由して海上保安庁に位置情報などを通報。小型軽量(携帯電話程度の大きさ)でウインドサーフィンやシーカヤックをするときにも救命胴衣に装着して利用。



海難防止のための無線設備の講習会の様子



海中転落者の救助方法の実演の様子



無線機器のデモを見る参加者の様子



各メーカーの無線機器展示・デモの様子